

おもちゃ病院伊都国

環境大臣賞を受彰

糸島市のボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」(波多江保彦代表)が本年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受け、波多江代表らが10月26日、市役所を訪れ、月形祐二市長に受賞を報告した。

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は、廃棄物の発生量の抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の適切な推進に顕著な功績

があった個人、団体に与えられる。

「おもちゃ病院伊都国」は2007年に設立され、壊れたおもちゃを無償で修理する活動を始め、小学校での「おもちゃ修理の学習支援」や不要のおもちゃを交換する「かえっこXおもちゃ病院」、不用のおもちゃを寄付してもらい、修理して福祉施設などに贈る「おもちゃ箱」などの取り組みをしている。会員は26人で、元工

ンジニアや教師などで平均年齢66歳。子育て支援センターすくすくと波多江公民館で、月に1〜2回、おもちゃ病院を開いている。

修理を担当する人をドクター、受け付けや補助をする女性をナースと呼ぶ。修理は無料だが、材料費など実費は負担してもらう。材料がない場合は入院して



表彰を受けた「おもちゃ病院伊都国」の会員

もらい、後日、修理したおもちゃを渡す。子どもたちに人気で1回15個ほどのおもちゃを修理している。

このほか、おもちゃから派生したさまざまな取り組みを通し、子どもたちが楽しみながらリサイクルなどについて学べる活動を実施している。

波多江代表は「自分たちの特技を生かし、子どもたちに夢を与える活動が評価され、うれしい。これからも、子どもたちが限りある資源を大切にしている。資源を大切にしている」と喜びを語っている。

玩具直し「物を大切に」

おもちゃ病院伊都国 糸島市

壊れたおもちゃを無償で修理する「病院」が糸島市にある。運営しているのはボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」(波多江保彦代表)。循環型社会づくりへの貢献が認められ、本年度の環境大臣表彰を受けた。診療の様子を見て、波多江公民館に開設された病院を訪ねた。



話し合いながら、おもちゃを直すドクターたち

名医の技 子どもにもに笑み

12日午前10時。開院と同時に、親子がおもちゃを手に診療室へやってきました。

女性のナースがおもちゃの症状を尋ねながらカルテを作成し、ドクターたちにお願いをします。と呼びかけ、ドクターは電気、木工、縫製

3に、もう一つのR修理を促す波多江保彦代表作成のイラスト



「なに、機関車の力が出ないって。私たちと同じだなあ」。平均年齢66歳のドクターの言葉に、診療室の雰囲気が一変。機関車の処置は、すり減った車輪にはめるゴムを交換して行程を終了。ドクターは慎重に分解して調べた結果、

入ればなにしていた電池の液漏れが原因。その場で部品をとり換え、電池を入れ直す。「いらしゃいませ」。

大手電機メーカーに動いていた波多江代表(77)が、仲間4人と市の子育てイベントで、おもちゃ病院を始めたのは2007年のこと。ドクターとナースは26人に増え、小学校の授業やイベントを含めて年約30回開院している。



修理の様子を興味深そうに見学する吉住和智ちゃん

キラリ

特筆すべきは、子どもが不要なおもちゃを持ち寄って交換する「かえっこ」の連携。かえっこだけの開催ではなく、ドクターたちがあってもいい、こうでもない、苦心心機しながら修理する姿を、見ることができ、かえっこ利用でも修理して貰った、壊れても修理してもらえる、おもちゃ病院の活動は、環境の「3R」と呼ばれる(リデュース)の減量(リデュース)、再使

用リユース、再資源化) サイクルを实践しているが、それだけではない。波多江代表は「3Rは褒められるが、病院はもったいない言葉だが、それが、子どもが物を大切に使う優しい心を養う」と胸を張る。おもちゃを預けて帰るのでなく、ドクターたちがあってもいい、こうでもない、苦心心機しながら修理する姿を、見ることができ、かえっこ利用でも修理して貰った、壊れても修理してもらえる、おもちゃ病院の活動は、環境の「3R」と呼ばれる(リデュース)の減量(リデュース)、再使

おもちゃ病院伊都国 子育て支援センターすすく(毎月第4土曜日、12月のみ第3土曜日)、波多江公民館(奇数月の第2土曜日)で、午前10時～午後2時に開院。修理代は無料だが、購入部品代は実費。電話=080(8390)8154。

(この資料は2016(H28).11.18付け西日本新聞から抜粋したもので、西日本新聞社の使用許諾を得ています。 同社に無断で転載することは出来ません)

楽しみながら資源再利用 学ぶ場に



糸島・おもちゃ病院伊都国 環境大臣表彰

壊れたおもちゃを無償で修理するといった活動を通じて、楽



子どもたちの目の前でおもちゃを修理するおもちゃ病院伊都国のスタッフ糸島市、いづれも波多江さん提供

しみながら資源の再利用などを学ぶ機会を子どもたちに提供してきたとして、糸島市のボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」（波多江保彦代表）がこのほど環境省の循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受けた。

おもちゃ病院伊都国は、定年退職した元エンジニアら数人が2007年9月に設立。翌月、前原市（現糸島市）の「子どもフェスタinまえばる」の会場で、初めておもちゃを無償で修理するおもちゃ病院を開設して好評を博した。以来、年30回ほど市内の公民館やイベント会場でおもちゃ病院を開いてきた。

また、08年からは市内の小中学校で、子どもたちが持ち寄った壊れたおもちゃを自分で修理する体験学習を指導。子ども同士が不要になったおもちゃを交換し、それが壊れていたら修理する「かえっこ」おもちゃ病

院」や、不要なおもちゃを寄付してもらい、点検・整備して福祉施設などに寄贈する「おもちゃ箱」活動を続けている。

子どもたちが楽しみながらリデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）の「3R」を学べるこうした活動は、13年度の「朝日のびのび教育賞」を受賞するなど各方面から高い評価を受けている。

現在、おもちゃドクターとナースは26人。波多江代表は「何よりおもちゃが直ると子どもたちが飛び上がって喜んでくれることが張り合いです。受賞をきっかけに、さらに活動に励みたい」と話している。

おもちゃ病院伊都国のHPは http://www.geocities.jp/omotya_itokoku/。問い合わせ・修理予約受付は080・8390・8154。

（鳥居達也）